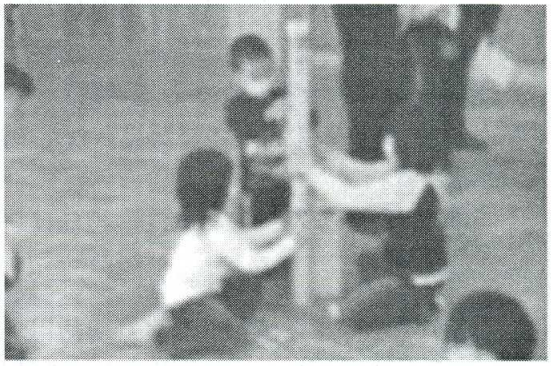
ずつのメンバー構成にしたことは良かった。しかし，田野口先生からのご指導の中で，Q－Uを生かしたグループ編制の必要性をご指摘いただき，大変参考になった。

- 多くのグループの中で，子どもたちなりに話し合いをしたり，意見を一致させて取り組んでいる姿が見られた。しかし，中にはなかなか話し合いをすることができず，グループの中で納得できずに作業を進めている子どももいて，「折り合い」をつける上でも特に少人数ならではのグループ分けの難しさも明らかになった。
- 低学年では「自分の思いを周りに伝えたい」という思いが強く，その思いを伝えるのに強い口調になってしまったり，周りの友だちよりも先に伝えようとしてしまったりして，一見，自己主張の強いと思われがちな子どもがどこの学級でも見られるが，長田先生は一人ひとりの子どもたちをとても大事にしておられた。一人ひとりの子どもを認めていた。だからこそ，子どもたちは何度も「先生」「先生」と呼んでいる姿があった。

(2) この事例から明らかになったこと

- グループでの協力を考える上でも，人数構成やグループ分けの重要さを確認することができた。その際，Q－Uを実施している場合に，参考にできることも確認し合うことができた。特に「侵害行為群」や「要支援群」にいる子どもたちのグルーピングには注意をはらうことを教えていただくことができた。
- 対人関係ゲームでは，シェアリングが大変重要であるが，なかなかそこに時間を割けない実態がある。今回の授業でも，終末段階での時間が足りなくなってしまった。「こんなに支えてもらって良かった。」「自分もみんなの役に立っているんだ。」という温かな気持ちをもって，授業を終わることができるようにしていくことが大切である。子どもの「気持ちよさ」をおさえていきたい。
- 『新聞紙タワー』は，小学校の低学年には難しい題材とも当初考えたが，低学年では低学年の，高学年では高学年の，中学生では中学生でのそれぞれの学びがあるということが明らかになった。また，1つの物に，グループ全員の意識が向かい，集中していくという意味でも，「折り合い」をつけていく上で大変有効な題材であることがわかった。
- 『新聞紙タワー』などの対人関係ゲームは，子どもたちの実態や発達段階に合わせて，ルールなどを変更していくなどの柔軟な対応も有効である。



4 来年度への課題

- シェアリングの重要さを改めて確認し合うことができたので，シェアリングについての研究を今後，深めていきたい。また，一昨年度以来の課題でもある「話し合い」活動における指導のあり方も探っていきたい。
- 昨年度から隔年で「道徳」と「特別活動」を行っていくこととなったが，再来年度に，長野県の道徳学会の上高井大会が予定されているので，来年，再来年と2年間連続で「道徳」を中心とした研究をしていきたい。